



Photography

福田泰次氏

山のアルバム ①

昭和7～11年

(中学)

昭和7年夏穂高槍縦走

中学1年夏 山1最初
7月7日登山行779

リーダー 岡本部長, 黒川, 佐野, 山口
川村, 中村, 福田, 野村

7月24日 中湯一上高地



大正池3月穂高, 焼7望山生L行初見77月7日1山1美洲ハ米ダ志L得十イ



上高地河童橋

7月25日 上高地—前穂—奥穂—穂高屋



奥穂別荘

前穂—欽岩

前穂到上高地大正池平

奥穂頂上

7月26日 穂高小屋—淵沢—一俣



淵沢—穂高—先登達—木ノ下—（註）穂高屋—上高地—大正池平—上高地—大正池平—上高地—大正池平 淵沢—上高地—大正池平—上高地—大正池平

穂高到上高地大正池平

7月27日 一候 暄 一 大 槍 一 一 候



大槍頂上=7

小槍

[illegible]

昭和7年夏甲南ハ-ア-淵沢合宿

2017.06.22

北尾根四峯 年南儿ト 7月21日

近藤山田

2 沙ヤルタ T, TE-Z 8月7日

己 津風 第一万招

2月21日 伊藤新 收

4 前禮學又傳江戶 江戶 2 月 13 日

伊拉新, 45

昭和7年12月菅平スキー合宿

岡本部長指導1基ニ約一週間 菅平黒岩定ニテ
スキー合宿ヲ行フコト時松ハ初メテスキーナルモ17
ヤツ1971

昭和8年夏白馬登山

岡本部長以下22名

7月24日(晴後曇霧深シ)

松本—四ツ谷—二股—横倉—青尻
前7:00 7:15 10:30 11:40 3:30着

7月25日(晴後曇午後5時頃ヨリ大暴風雨)

青尻発—頂上小屋着
7:00 7:20

7月26日(終日風雨)

小屋滞在

7月27日(雨霧深シ午後曇)

頂上小屋発—金邊着—白馬温泉着
11:00 12:10 3:00

7月28日 白馬温泉発—二股着—四ツ谷着—松本

6:30 11:00 11:40 4:20

昭和8年12月乗鞍スバランスキー合宿

岡本部長指導1基ニ約5日間 乗鞍スバラン小屋
ニテスキー合宿ヲ行フコト合宿ニテドラウボーゲン
1基似事ガ出来ル位ニナリ

昭和9年7月穂高涸沢合宿



喜多先輩指導1基=約一週間涸沢
岩小屋=合宿ス。1間前穂北尾根

ジャングルに笹弾尾根ヲ登攀セリ
アルプスニテ1初メテ1岩登リナリ

前穂北尾根



ジヤングルハ 飛騨尾根



奥木 到前根 9/1/26

新穂 到 奥木. ジヤングルハ 9/1/26



北魏北壁



北魏第二层



北魏第三层



海拉尔



奥又白谷ヨリ前穂バツルスヲ登ル

昭和9年7月

涸沢合宿終「後上高地」居残り田口＝即先輩(東大)ニトモナハル

穂高奥又白谷＝入ル

当時奥又白谷ハ穂高ノ内デモ恵場トサレ居リ村ニド人跡ハ

無カシ前穂バツルスハ前年伊藤兄弟＝ヨリ涸沢ヨリ初登攀
サレカ奥又白谷ヨリ直接エ＝取付カトスル試ミハ我々が最初デアツ

我々ハBase Campヲ奥又出合右岸＝張リ登攀ノ機会ヲ待ツ

偵察ノ結果Routeハ奥又本谷左側ノブヅ江尾根ヲ至テ奥又

カル＝入リ向テ左側ヨリバツルス＝取付カトスル数日雨天ノ後

一日快晴ヲ得末明Base Campヲ出テ奥又本谷ヨリブヅ江尾根

ニ取付カテ烈ナブヅ江滑ギ後カル＝出テEisenヲ付ケテ

雪渓ヲ登ル傾斜モ相当急＝ナリヌカデノザンシニ一途＝先登ヘ

ト向カフ雪渓ノ相当上部＝直シ時田口先輩カベルグ・ユル＝落テコ

相当アワテテ崖＝岩壁＝直シ左側ヨリ取付カテビツト＝シテOuchang

ノ恵場＝ブツカルPitonヲ打テ恵場ヲ乗越シ頂上ヘト向フ

派勞コトハイノ後ヤヤヤ前穂頂上＝達テ時日ハ西山ニ沈マシテセル

コソツリハ出来又早速下山＝カル7"セードヲ飛バシテ涸沢谷ニ達ス

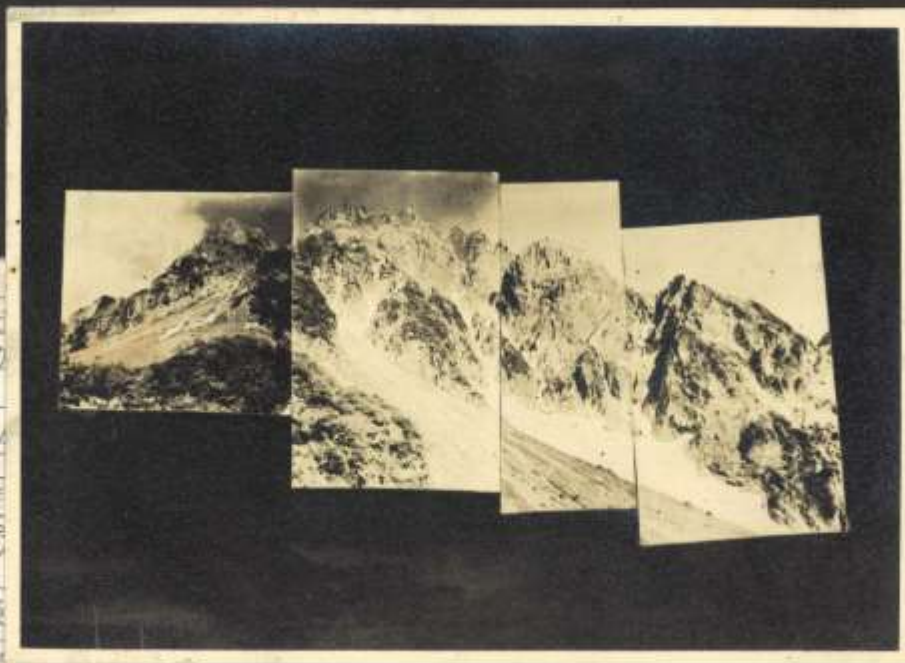
日ハ既ニトツリト暮シテ夕食ヲスル夜道ノ横尾谷ヲ下リ途中道ヲ

誤リ一俣小屋ニ墜ル時ハ既ニ10時ヲスギテサ9ノ時間ノArrestノ

後ヤヤヤ奥又白谷ヨリ前穂バツルスヲ完登スル事ヲ得



奥又ノ池前穂北尾根ヲ望ム



2. 前穂北尾根に登攀は
て云々と C, B, A フェース
記録に上る

1 昭和 6 年 8 月 C, B,
東大

2 昭和 7 年 8 月 北壁
甲南

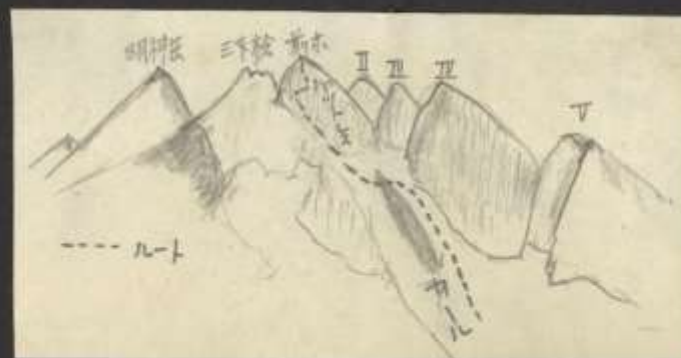
3 昭和 9 年 7 月 C, B,
田口 = (東)

従つて本登攀は第

一ではないかと思う (但し記録に無い
登攀があれば別)



奥又ノ池列前穂北尾根ヲ望ム



この篇穂北尾根に登攀は現在ウルト
エジプト C, B, A フェースの登攀で
記録による

1 昭和 6 年 8 月 C, B, A フェース

東方 口堀池

2 昭和 7 年 8 月 北壁 A フェース

甲南 伊藤新田

3 昭和 9 年 7 月 C, B, A フェース

田口 = (東大) 福田 (甲南)

従つて本登攀は第 2 の 第 3 登
ではないかと思う (但し記録に無い
登攀があれば別)

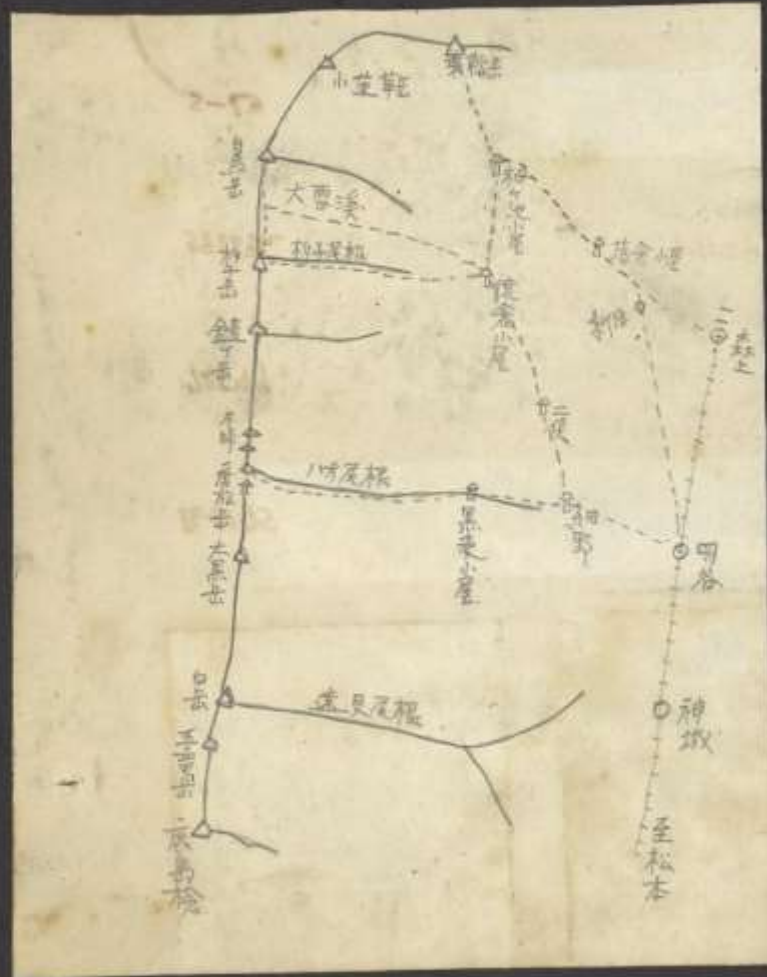
乗鞍・冷泉スキー合宿(昭和10年1月)
山岡リーグ基ニ約一週間スキー合宿ヲ行ヘリ





昭和10年春 白馬生活

リ-ツ山岡 植田、福田、森松、中村



3月29日 快晴 四ツ谷—新田—落倉—梅沢小屋

3月30日 晴 -7°C PM 6.00 乗鞍及小蓮華

小屋 (AM 9.00) — 乗鞍 (10.40—11.00) — 小屋 (11.40)

小屋 (PM 1.00) — 小蓮華へ向て PM 3.00 まで登山 — 小屋 (PM 7.00)



乗鞍頂上ニテ

乗鞍ノ下リハホーゼント
道滑降デ兼晴シタ

3月31日 曇り AM 7.00-7.00
 棚池小屋 (AM 7.00) — 鎌倉 (11.00-11.40) — 高田里 (12.50-2.00)
 — 黒菱小屋 (PM 4.30)



二俣ヨリ不歸ヲ望ム
 実ニ美シキマヤ筋ヲ示シタル

4月1日 晴後吹雪
 黒菱小屋 — 11.5 尾根 — 唐松小屋



八方尾根ヨリ五竜岳展望ヲ望ム

スキーヲ置行アイゼンデハ方尾根ヲ登ル
 五竜、鹿島槍、不評 白馬実ニ素晴シ
 目眩マシ



八方尾根ニテ

4月2日 吹雪 快晴 唐松小屋 (AM1000) — 細野 (RM490)

本日ハ不歸到白馬=向ヲ決定テ、明日ハ昨夜来ノ吹雪ノ人計量ヲ放棄シ
一旦、細野=下リ、鎌倉到リ、杓子尾根ヲ登攀スル事ニ決セリ

4月3日 快晴 細野 (AM940) — 鎌倉 (RM215)



鎌倉へ向フ途中、白馬ヲ望ム
4日ハ快晴=9白馬ガ美シ



赤松君



鎌倉へ到着後、明日登攀ヲ決定シ、杓子尾根へワグニ=テラセル=行ク
先キ一區、計リテ、夜ハ先取リ、ライスカールヤツ



小蓮華刈杓子尾根ヲ望ム

4月4日 快晴 杓子尾根登山
 鎌倉小屋 - 杓子尾根 - 杓子頂上
 - 白馬小屋 - 白馬頂上 - 鎌倉
 - 四ツ谷 - 松本



アハシノリノケウカシキツステ
 ナヤ尾根ヲシヤク登ル頂上直下ノ懸崖
 1切ノヤニ一寸モ踏ミ



瀬ノ頂上ニ置ス一同ノザリテ
 Berg Heil

頂上ノ眺メハ素晴らしい



谷ノ方面ヲ望ム



妙高方面ヲ望ム



白馬頂上ヨリ小笠原ヲ望ム



白馬頂上ヨリ木ノ下ヲ望ム

カチ樂シカリシ一週間ノ春ノ山旅モ終リテ告ゲタ 杓子尾根ノ登
 攀モ成リサテ冬山ヘノヒニシモ充分目的達成シ得タ 何等モ
 不満ハ無イヲ満足ニ残テ下山ノ途ニソクワガシニテジャン
 大鹽溪ヲ飛バン猿倉ヘクトリテ叔父ハナヲ謂 Home Speed
 ニテソノ日ノ夜ニ松本マデ下山シテモツタテアツタ

昭和11年5月底 島東尾根

パートナー 福田 伊藤 文

5月1日 東尾根登山 攀り目指して 伊藤と2人 鹿島へ入った
天候 = パーとレ 遂 = 目的ヲ達シ得ス



5月5日(晴) 大川(AM7:00) - 鹿島村(7:50)
- 大川・冷沢出合(8:30) - 一次登山
(9:40) - 冷小屋(10:00~12:00) - 12:30 マテ3人
ヲ登リ 雪崩ノ小屋 = 7:00 (1:00) -
(12:00) マテ登山 - (4:00~5:00) マテ3人
偵察 冷小屋泊り

大冷沢・大川 出合 到達 最 松ヲ望ム

5月6日 曇り後雨

冷小屋(4.00) — 二沢出合(5.00) — 三沢町登(1) 天候更化(1) 爲引返(1) 三沢出合(保加) 4.00
— 小屋(9.00~11.00) — 道林小屋(1.40) — 鹿島村(2.40)



二沢出合 猛烈な雪崩が認められる



北股如河



儿登河



三、沃登嶺中條之岳群。



三ノ沢出合附近ニテ

翌朝、危険ヲ考ヘ素晴シ早ク小屋ヲ出、日出マテニ尾根筋ニ達セリ
 7時頃ニテ三ノ沢ヲ登リ、午後200m位ヲ乗、尾根ニ出ル所マデ至リ、
 天候悪化シ如クニ雨ハ降り来リ、路ノ険シク、墜落ノ危険ヲ考ヘ
 見セ、切リテ入リ、残念也、再考ヲ期ス事切ナリ

昭11年夏 鹿島槍 カクネ里 生活

リーダー 赤松, 関, 中村, 福田



カクネ里ハハルバリエ・ジョルット及当時の末登攀
テアツ荒沢ハハルバリエ登攀ヲ目指シテ鹿島カク
ネ里ニ入ルカクネ里入りノルハハル尾根ヲ登ル
遠見尾根ヲ入ル太リテ並行スルモノ3ツカ考
ヘラレカ遠見尾根ノ切開キガ未完成テアツタメ
カイ路テハルカハル尾根ヲ登テ白岳ヲヨリ
カクネ里ニ入ル事ニ決シ

カクネ里マデ

7月12日(晴) 組野一黒菱小屋泊リ

7月13日(雨後晴) 滞在

7月14日(晴) 黒菱(Alt 5500) - 唐松小屋(Alt 1090-1130) - 白岳

(Alt 215) - カクネ里キャンプカイト(Alt 1900)

主筋ヲカクネ里ハル尾根登攀ハ大変タダ刻シカクネ里ニ
外リ着ク花崗ニテントヲ誤リベースキャンプトスル

ハル尾根御花簾ニテ
美シ富山栴檀内テ鍾響ニ美シナリ

ハル尾根ヲノル



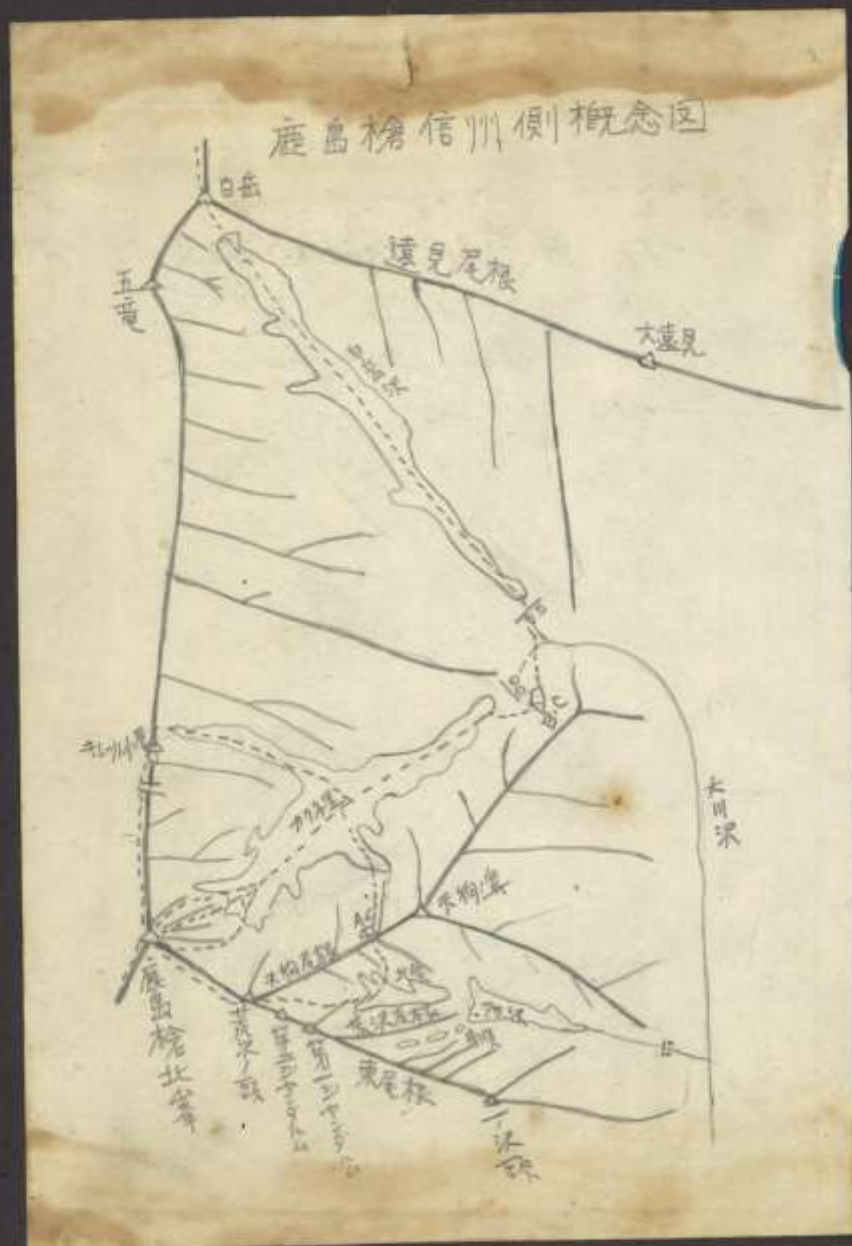
鹿島槍



不歸也



白馬岳



登山日記

7月15日(曇りガス多)

福田中村パーティー 雪渓上部に到り壁ヲ偵察ス

赤松閣パーティー 天狗尾根に荒沢ヲ偵察セリ途中ヨリ引返ス

7月16日(曇り) 猛烈ナガス

天候変化ノ爲ニパーティートモ途中ヨリ引返ス

7月17日(曇りガス時々取れ雨)

福田中村パーティー Main Ridge 登攀 B.C(600) - 取着(800) - 滝横ノ更場a
セリツテ(900~1030) - 滝横ノ更場b(1200) - ルンゼ入口(P.M.100) - 雨ニ Main Ridge
ニ出ル(230) - 頂上(415) - ツバノ小屋(600)

取着ヨリ僅かに雪 Overhang 更場aニツケル Pitonヲ打ツテ乗越スルヨリ壁ヲ
右ニトラバースニ Main Ridgeニ出ス 天候ニテ星余後ハ 山ノ松ノ尾ノ Ridgeニ
沿ヒ登ルニ頂上ニ達スル同時ニ 天候ニテ雪ノ量ノ増大ニテ 右ニテ 方向ヲ改メ
ツバノ小屋ニ入ル 霧ニテ 南ノ山ニテ 中途ニテ 道ヲ改メ 山ノ松ノ尾ノ Ridgeニ入ル
赤松閣パーティー 天狗尾根ニ出スルモ 天候変化ノ爲ニ引返ス

7月18日(曇りガス強シ) 福田中村パーティー 天狗尾根ヨリ キレットヲ登リ B.Cヘ

赤松閣パーティー キャンプニ滞在

7月19日(曇りガス強シ) 全員 キャンプニ滞在

7月20日(晴レ時々ガスカリ遠ニ雨)

福田中村パーティー All-se 登攀 B.C(1500) - 取着(730~850) - 七雲(900) - 大岩

懸崖下ヲ直リ ルンゼ IIニ入ル(1000) - 取着セリルニセ Aニ入ル(1130) -

頂上(110~130) - キレット(230) - B.C(230) 天狗尾根上ルニテ ダツ

赤松閣パーティー 天狗尾根ニ出テ A.Cヲ数ヶ所ニテ 雨ノ下リ引返シ

7月21日(晴)

赤松閣パーティー 天狗尾根ドムヘ アドバンスキヤニテ 7ヶ所ヲ

福田中村パーティー 1ヒ

7月22日(晴)

福田中村パーティー 7ヶ所ニバトリスバトリスヨリ リッチII 登攀

B.C(A.M.520) - 取着(730) - Ridge II 右ノルンゼニ入リ壁ヲトラバース

リ Ridge IIニ取リツテ(900) - Ridge IIヲ越ヘ II 左ノルンゼニ入ルトコロ 滝下

(P.M.100) - 滝ヲ乗越シルンゼニ入ル(1130) - ルンゼ通ニテ 登リ頂上(1330~1400)

キレット小屋(430) キレットニ到リ

1932年伊藤新パーティーニヨリ Attackセリ 放テツテ Ridge II 登攀ヲ目指ス

Ridge 右ノルンゼヨリ 取着セリ 壁ヲリッチヘ 向テトラバーススル 11時13分ニ至ル 相

悪シ Piton 2本ヲ用テ Ridge IIヲ乗越シ 左ノルンゼニ入ル ルンゼ入口ノ滝

乗越シ 約30' Vertical Wallヲ登ル ルンゼニ入リテヨリ 更場ナリルセ

通シ 懸ニ頂上ニ至ル

赤松閣パーティー 荒沢ノバトリス初登攀

On Advance Camp(A.M.630) - 取着(730~850) - E 雲(1030) - 雪渓下

(1150~1210) - アズノ頂上(1110~1140) - 北嶺(200) - キレット(230) 天狗

尾根ヲ登リ 中央雪渓ヲ登リ アズノ頂上ニ到ル

7月23日(晴) 赤松福田両パーティー キレット小屋ヨリ 天狗尾根 Dom I A.Cヲ横メ

中村関ニキレット小屋ヨリ B.Cヘ

7月24日(雨) 赤山 B.C(900) - 遠見尾根 - 神城(500)

食料ハ一ニテ 未ダ残リ完全ニ不足ニテ 1日雨ヲバアツタガ

鬼ヒツツナ 重荷ニテ アギナガヲ遠見尾根ヲ登リ 下山

Kakunozato buttress from base camp.



Base Campよりカクネ里バツルスヲ望ム



人頭一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。



雪溪上部の壁の壁



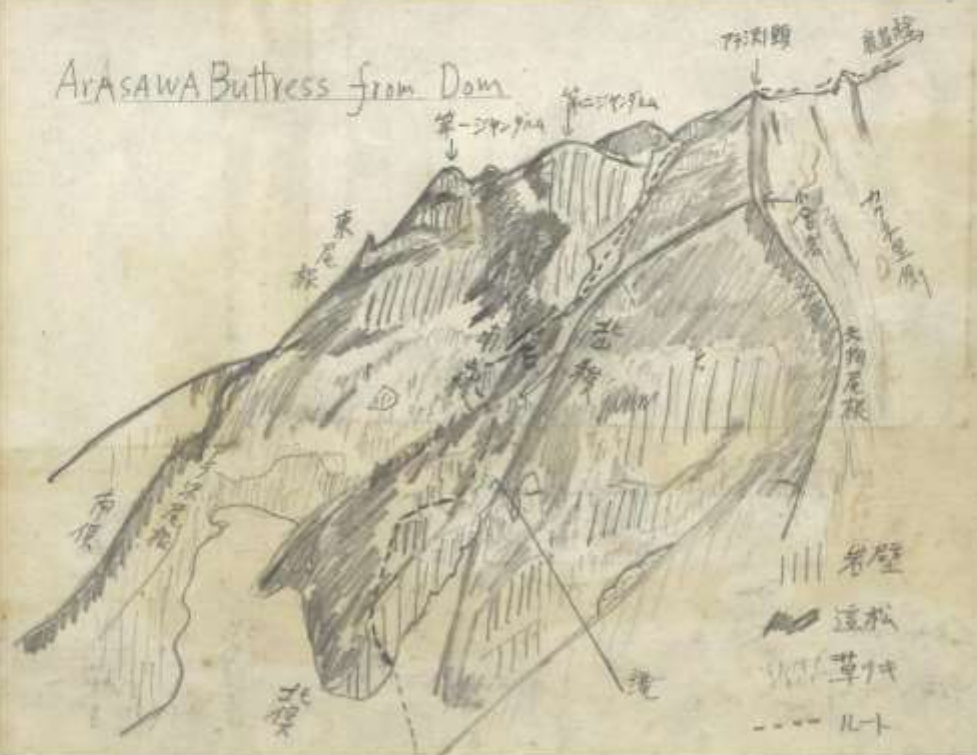
雪壁取付（付止）ベルグシュート 3767
物ノズイベルグシュート 7 乗越シ壁ニ取
付ノハ相当困難ナ極メ

阿蘇山 荒波バツルスツ



鹿島槍が岨出サレテ東尾根及ヒ天狗ノ尾根ノ間ニ
ハサレテア字谷ノ下に至リニ毅然トシテヒト立テサレ
荒波ノ壁ノ下ニ我々ニ攻テサレマデハ未ダ登攀
マデサレソノ処サレテ誘フテサレテアツ

Arasawa Buttress from Dom



アラスカ山

我々が初登攀と思つたが後程
記録によリ清高が前年初登攀し
テいる事が解ツた從テ我々の登攀
は南稜第二登攀と思フ

- 1 初登攀 昭和10年7月23日
清高 今西 木村
- 2 第二登攀 昭和11年7月22日
甲南 赤松 門
- 3 積雪期初登攀 昭和16年3月26日
東大 佐谷(清高)伊藤(甲南)



歷古乾坤上列銀朱符號



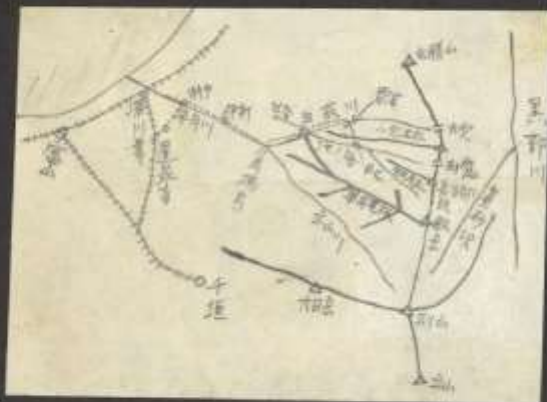
ハ崎キロバ小屋=テ2日教習/ハコ
ハ防沢/バト以/初登警方カミ屋
バト以/ハリエ=ヨシルト=成功シ全
済=意元テキロバ小屋=同泊也

約10日間、鹿島カワ里生活にハワシ、バツス初登攀
及カワ里バツス、バツス・エ・ヨル・ト登攀、ハ291輝光成果
=ヨリ報ヒルヲ、我等ハ満足ニ致行下山、途=着

昭和11年夏釀池谷生活

11-7-11-9-福田 赤松 中村 関

銀池谷カハ銀方面ニ於テ最盛ニ成ルヲ神秘谷ナル大休銀ハ早ヲ開ク登攀者モ多カレバ西面ノ
 原性ハ環谷ハ今日ニ至ルニ向テ人跡稀ナルニ至リ成ルヲ又モ銀池谷ハ行テ谷カラ脱ツ
 トテハ五レル僅カニ思ハレタルカ池谷ニ銀長治郎登根ノ頭ヲハツテ落込デタル大岩根ガアルコト
 1907 銀長根ニテルカ登攀ハ當時ノ登山界ニ成ルヲ問題トシ前年夏ニハ東大、早南ハテ
 1910 カ登攀ヲ目指シテ池谷ニ入ツタカ Dam へノ崖登ハ度成サレタニ、遂ニ本尾根ノ頂登ハ
 成ルヲル難關トシ本年ニ指趣サレタル意味ニ於テ我々ハ大ナル成功トシ、僅シクハ
 本尾根ノ頂登ヲ目指シテ池谷ニ入リテ了ツ



悲 落 = 入ルマデ

7月26日(晴) 蒸餾器3台 瀝青洗車 變壓器 152 揮發油(9.05) - 折子(10.53) - 伊折(12.00-3.00)
二號桶晶(5.44)

第1大会 加藤 巴州 荒次 / 巴州は7完登 汐敷 / Party ハ 寛気3ウ<ト第21目的地
9ル 泉 池 谷 へ (ト向)

7月27日(快晴)池(谷入)馬場壘(AM7:00)一池(谷)特(池)地(AM7:00)

[illegible]

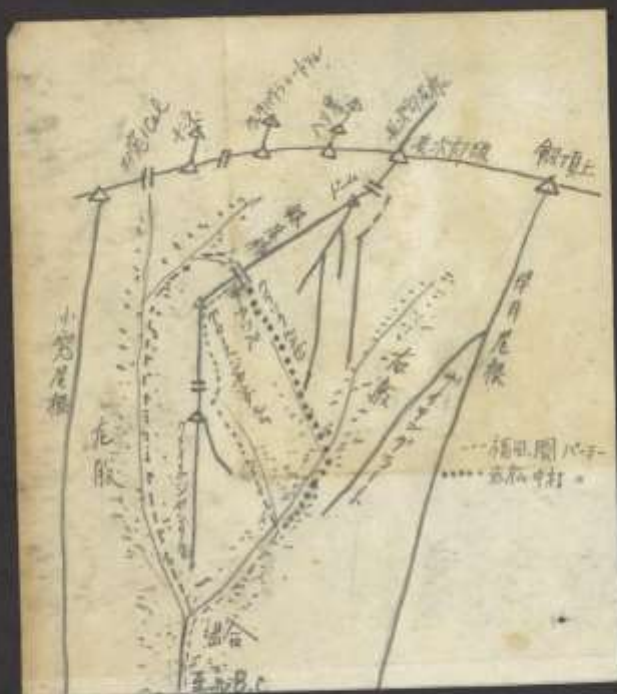
尾端第7響7進=地/外=下/内=虎岸=Ban Camp 7 設7心



日新川池1谷=土合5391池1谷7231
21谷11大滝=田丸7561直井21谷
391池1谷=入平11不可能577



雷岩附近 / 延壽地裏 2 / 日新川
1 / 延壽ハ棚元ノ序



ヘースキヤンプ・ヨリ鯨尾根ヲ望ム



ベースキャンプ。

A sepia-toned photograph of a high-altitude mountain valley. Two figures are walking away from the camera on a rocky path that leads towards a distant, snow-capped mountain peak. The valley floor is covered in rocks and debris, and the steep slopes are sparsely vegetated.

8月1日(晴後曇) グローブシヤンタルム / 登攀
福田、関、バーナー Base Camp (A.H.G.P.) - グローブシヤン グローブシヤン
間1ルンセ 取付(7時) - グローブシヤン TR (PM130) - ヤマノ
3リ左股倒1ルンセヲ下リ左股ニ出テ Base Camp 17着(3時)
午前3時起床 A.H.G.P. Campヲ出ル 葛ノライ池浴 聖溪ヲアセン
ツクサ2リト登ツタリ右股ニ入リ僅カニ行ツグシヤン グローブ
シヤン間1ルンセ 出合ニ出ル 赤松 パート全 Serヲツケル
セヲ登リ出ス 岩カ硬ク行テ感力良イ 兎ナ草着テ登リ gap=地
此処ヨリ3リ穴1壁1跳ハ1時半ニ物浮イ合フオチ登タ gap
上ハ兎ナ壁ニ阻ル所 左股倒ハ 兎ナ草付ダ 色トルト
ヲ考エタ 結局懸切ツタ右股倒1 壁ヲ巻キ初メル 数ビツ
テ行結ル壁ハ右股倒ニ垂直ニ落テ込ミ更ニトラバースヲ続行
ル事ハ不可能ナ 任テナイ意決テ Overhangヲ乗り越テ尾
根筋ニ出シス ハーゲンヲ打テ數回 attack スモドウレモ駄
目ナ 作モ海磐シテ来ル 金ノ右股1度ハ落テ込ミラナクニ
其間ト topヲ夜替シ漸ク2100m hang1 重テ行テ乗越
後ハガウ(1ガー)ヲ斜右ニトラバースシ遂ニ グローブシヤン TR上ニ
立リ金ノ感激ヲモテ 関トシカ外 獲テテ入ス 登攀不能
トナレタ グローブシヤン カ道ニ我々バーナーニ至リ穴登ルヲ
19時 = 昭和三十二年八月一日午後1時30分ナリ。 グローブシヤン
3リ gap=下リ 左股倒ニルンセヲ下リ 赤松 パート
合シ ベースキャビン = F.W.

37



尾根筋ニテ



三ノ宮ノ大岩壁

8月2日 表雨
全ノ山ノ目的ハ達セラレ思ヒテ又ス事ハナ
散々ノ見出テ表雨ヲ行テ谷ヲ去ル

秋ノ上高地



上高地ヨリ出川ヲ望ム上高地ハ紅葉ナク実ニ美シ
岳ニハ既に新雪ガ着行キタ

11月2日 松本-上高地-穂沢-栗又谷合
511年 上高地

11月3日 田口=弁先(大)ト供=明神池
ヨリ宮川ヲ登リ明神バトリ又
明神尾松ノ傍ヲ下ル

冬ノ穂高生活準備ノタメニ金料品等ヲ荷上ル及地形ノ偵察ヲ
目的トシテ秋ノ上高地ニ入ル同行伊藤又二



上高地平偏院金、沙田吹撃隊大
H= 上高地西赤屋前二丁



明神最南峰



明神池より明神ハルヒス 明神尾根ヲ望ム



四望ヶ原の神戸



三友伊賀の山田氏



富川天到明神巴以明神度根ヲ望ム
 実ニ美シク冬ハ是非明神度根ヲ
 登嶺ニシテ我ニ勝算アリ



秋ノ絶頂ハ雲ニ美シクアリ新緑トシテ岳ノ新姿ヲ見ル
 美シト云フ以外ノ景物デモナク我々ハコノ山ヲ
 上ル地ニハナシカシメテカウコノ冬面ニ到ル事ヲ
 堪ヘテ下山ノ途ニツク



昭11年10月
運動會各部部員行列中後